

おもしろ炭づくり

奈良県吉野郡野迫川村立野迫川小学校 福嶋 一久男

●どんな実験なの？

炭をつくったことがありますか。炭は昔はよく使われていたけれど、今は日常生活ではあまり使われていないと思いませんか。でも、炭は今もインスタントカイロや脱臭剤の中に使われています。この実験では、身の回りにあるものを材料にして、形をそのまま残した炭をつくります。

●実験のしかたとコツ

【用意するもの】

あきかん、マッチ、アルミホイル、はりがね、つまようじ、ペンチ、ピンセット、コンロ、水を入れるための容器（何でも可）、炭になるもの（マツボックリ、ヤシヤブシなど）

【実験のしかた】

- (1)あきかんの中に材料を入れ、アルミホイルでふたをし、はりがねでとめます。(図1)
- (2)中火にしたコンロに(1)をのせて、つまようじでアルミホイルに穴をあけます。(図2)
- (3)コンロの火を強火にして、アルミホイルにあけた穴にマッチを近づけ、あきかん内にたまっているガスを燃やします(図3)。ガスが完全に消えるまで、何回か火をつけて燃やします。
- (4)ガスに火がつかなくなったら1分後に火を止め、水の入った容器につけて、全体をさします。(図4)
- (5)十分にさめたら完成です。(図5)

※色画用紙の折り紙では3分ぐらい、乾燥したマツボックリでは5分ぐらいかかります。材料に水分が含まれていると時間が長かかります。

●気をつけよう

煙が出ますので、風通しのよい場所で行い、やけどに注意してください。

●もっとくわしく知るために

・福嶋一久男著、奈良県立活動センター編：「野外活動の手引き（いろいろを囲んで）」 奈良県立活動センター（1997）
くわしくは筆者までお問い合わせください（巻末の問い合わせ先一覧参照）。



図1

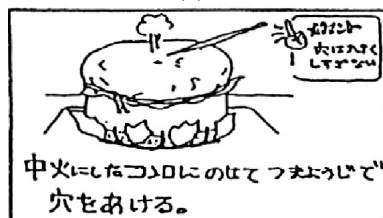


図2



図3

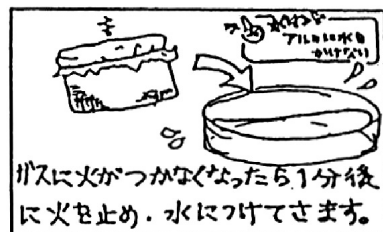


図4

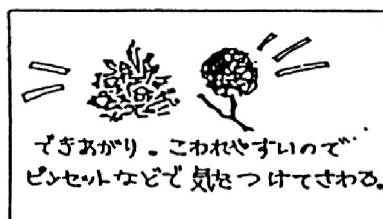


図5